

2008年度第1回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2008年(平成20年)4月23日(水) 15:30～16:55

場所：2-1701

出席者：計 85名

欠席者：計 38名

当日配布資料：

1. 前回議事記録(2008年3月5日開催)
2. 2008年度長期計画企画拡大会議開催日程
3. グランド・レイアウト冊子(2種類)

スライド資料：

1. 高等教育をめぐる我が国の動向(報告)

議 事

審議に先立ち、事務局より、配布資料の確認を行った。

1. 高等教育をめぐる我が国の動向について

石澤学長から、スライド資料を基に、「高等教育をめぐる我が国の動向」について報告があった。

I. 私立大学の現状 ～志願者獲得のあの手この手～

- 1) 約4割の私立大学が収容定員割れ
 - ①2007年の決算で64法人が経営困難
 - ②私大存亡の危機＝9法人が破綻寸前
 - ③11法人が卒業生を送り出すこと不可(私立学校共済事業団の521法人中)
- 2) 18才人口＝1992年：205万人、2008年：124万人

II. 国際社会における学力保証

- 1) ボローニャ・プロセス：①カリキュラム標準化、②単位取得基準の明確化、③学位基準の明確化
- 2) アメリカの標準試験：SAT・ACT
- 3) 高等教育の国際化に向けて ←日本の大学
- 4) 高等教育在学者：25名(日本)、58名(アメリカ)、41名(イギリス)(1,000人当たり)

III. 私立大学の教育費負担

- 1) 私大在大学生のご父母 ～高い負担と納税＝二重の負担～
- 2) 教育費負担

私立の在学費用	1,396,000円(年間)
国立の在学費用	855,000円(年間)
- 3) 2006年学生一人あたり教育費(国庫負担金)／授業料

私立の教育費	164,000円／1,265,000円
国立の教育費	2,668,000円／738,000円

IV. 教育は私立大学の生命線

- 1) 私大1校あたりの平均3.3億円／国立大1校当たり平均110億円・・・30倍のひらき
- 2) 本学の経常費補助金：22億8千万円(2007年度) (2006年度より3億1千万円減額)
- 3) 大学運営に占める授業料の割合 国立大 16%／本学 68%
- 4) 高い授業料を負担するご父母へのアカウントビリティ(説明責任)
- 5) 教育の質の保証：カリキュラム充実・上智らしい教育の構築

V. 教育・研究目標を掲げて (新任教職員辞令交付式4/1学長講話)

- 1) 激動の社会における教育・研究のパラダイムの変革に应运 ←21世紀Sophia Missionとは何か
- 2) 競争的環境の中で上智らしさが輝く大学 ←世界に並び立つ大学を目指し
- 3) 語学力に立脚した上智モデルの展開 ←英語プラスワン
- 4) 学生の立場で考える ←学生の教育満足度の向上
- 5) 教育に熱心な教員と、教育活動等を前進させる職員
- 6) 教育・研究に王道はありません ←上智の真価が問われている

VI. 本学の課題から

- 1) 個性的で特色ある大学づくり: 一般入試の結果から
 - ①2008年度一般入試の志願者数は微減～理工の約1000人増があった
 - ②一般入試歩留率: 全学科の入学手続締切日までに入学手続完了者が僅か10%
- 2) キャンパス計画～マスタープラン ～(市谷、石神井、秦野、真田堀)
 - ①四谷キャンパスに、学部・大学院・研究所・センターが集中: 抜群の立地条件
 - ②耐震工事開始: 2008年度から1号館・3号館・4号館
 - ③収益ビル建設と理工学部を中心とした新校舎棟の建設を計画中
- 3) 教育研究組織等の改編
 - ①教職課程センター(仮称)設置計画の立案
 - ②語学教育研究センター(仮称)設置構築の具体化検討
 - ③FDセンター(仮称)設置計画の立案など
- 4) 入学試験制度改革のためのWG ←13年ぶりの見直しに向けて
 - ①一般入試制度の見直し等
 - ②特別入学試験制度等の改革
- 5) 教育機能の強化
 - ①各学科の教育目的と人材養成像に基づき、カリキュラムの充実
 - ②上智らしい教養教育・教育の質の保証、文理融合のカリキュラム
- 6) 研究機能の強化
 - ①研究活性度の調査:
 - (a) 科研費等の受給状況
 - (b) 研究能力(将来性・独創性等の審査)を備えた大学トップ50に入らず
 - ②研究業績主義の導入
- 7) 国際性の進展
 - ①グローバル・リーダーシップ: アジア・イエズス会4大学共同プロジェクト
 - ②外国人教員19カ国 約100名(全教員の5分の1)
 - ③交換留学協定 123校、交換留学生派遣 207名、在籍留学生 51カ国811名(統計2007による)
- 8) 地域貢献・社会貢献の拡大
- 9) 学生支援制度・体制
- 10) 知的資本の開発・蓄積等

2. グランド・レイアウトについて

高祖理事長から、「グランド・レイアウト」が2001年度に決定してから7年間に過ぎ、これまで多くの教職員がこれに関わってきたが、長期計画企画拡大会議構成員や各検討専門委員会委員の顔ぶれも当初に比べかなり入れ替わっていることから、改めてグランド・レイアウトを読み直す機会を設けることとしたとの報告があった。

章ごとに事務局による朗読と高祖理事長による解説が行われ、基本的方向・姿勢、アカデミック・プラン、フィジカル・プラン等の当初の目的や内容について再確認を行った。

高祖理事長からは、各検討専門委員会において、早急に委員会を開催し、グランド・レイアウトに書かれている課題や新たに出てきた課題について、短・中・長期の区分けとそれぞれの課題についての検討を行い、委員会の活動の方向性を出すよう要請があった。ただし、日常的に解決を図るべき課題については、それぞれの部署において対応するよう指示があった。

また、これまでに実現した新ホフマン計画の評価も併せて行うべきであるとの意見があった。

なお、グランド・レイアウト等について意見がある場合は、文書または電子メールで事務局まで寄せることとした。

3. 次回会議について

今回は、2008年6月4日(水)の午後3時30分から、L-911室で行うこととする。なお、詳細は追って通知する。

以上